

「カリキュラム・マネジメント」の 充実を目指して Vol.2

目次

令和2・3年度 研究について	1
「カリキュラム・マネジメント」概要	3
役職や校務分掌による取組	4
研究主任とカリキュラム・マネジメント	5
研究協力校の実践 岡山市立芳田小学校の取組	7
研究協力校の実践 岡山市立福田中学校の取組	9
教員とカリキュラム・マネジメント	11
研究協力校の実践 岡山市立福田中学校の取組	13
研究協力校の実践 岡山市立芳田小学校の取組	17

令和2・3年度 研究について

岡山市教育研究研修センターでは、学習指導要領の趣旨、全国学力・学習状況調査の結果等を基に、教育課題を取り上げ、研究協力校と連携して、2年間に渡って「教育課題別研究」に取り組んでいます。

五期目となる令和2・3年度は、三・四期で研究してきた「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善とともに学習指導要領改訂の基本方針の一つである「カリキュラム・マネジメント」の充実を目指した研究を実施し、令和3年度の取組を本冊子にまとめました。

本冊子を、令和2年度に発行した「『カリキュラム・マネジメント』の充実を目指して」と合わせて、校内の研修等でご活用ください。そして各校のカリキュラム・マネジメントの充実を図り、学校全体で子供の資質・能力の育成に取り組んでいきましょう。



令和2年度発行「『カリキュラム・マネジメント』の充実を目指して」

<令和2・3年度 研究の目的>

学校が、各種調査結果の分析から子供・学校の実態を適切に把握し、教科等横断的な視点や校外の資源の活用の視点から年間指導計画等の見直しや授業の工夫をすることで、教員の授業力と子供の資質・能力の向上を図る。

<研究仮説>

- ① 教員が、各種調査結果の分析から子供の実態を把握し、目指す子供像を明確化・共有することで、育成したい子供の姿の実現に向けた授業改善ができ、子供が成長を実感するなど授業の満足感が向上するのではないか。
- ② 教員が、教科等横断的な視点や校外の資源の活用の視点等から年間指導計画等を工夫することで、子供が資質・能力を習得し、身に付けた資質・能力を活用・発揮することができるように授業改善ができ、子供の資質・能力が向上するのではないか。

研究の方法①

岡山市立福田中学校では、育成を目指す資質・能力（目指す子供像）を、「自分の言葉で説明、表現できる力」としています。すべての教職員が「目指す子供像」を明確化・共有した上で、各教科等の単元や題材などのまとまりのある学習を通して、授業改善に取り組みました。また、すべての教職員が「協同学習」の手法を取り入れて授業を実施し、学び合いを基盤に、「目指す子供像」の達成に取り組みました。

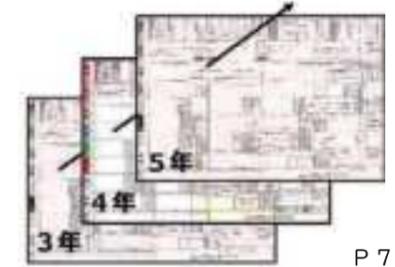
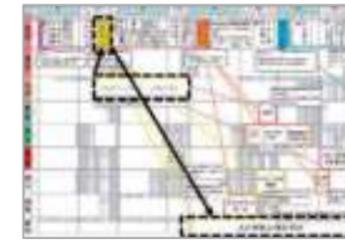


P 9, 10参照

研究の方法②

岡山市立芳田小学校では、「目指す子供像」を意識し“校内研修・研究授業・研究協議”を効果的につなげた校内研究に取り組みました。

また、教科等横断的な視点で単元配列表を作成し、年間指導計画の見直しを図ったり、単元配列表を重ね、学年ごとの資質・能力の系統性を確認したりすることで、子供が身に付けた資質・能力を活用・発揮することができるように授業改善を行いました。

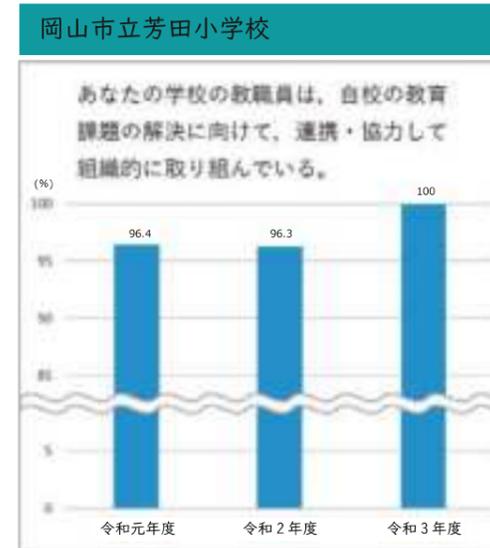


P 7, 8参照

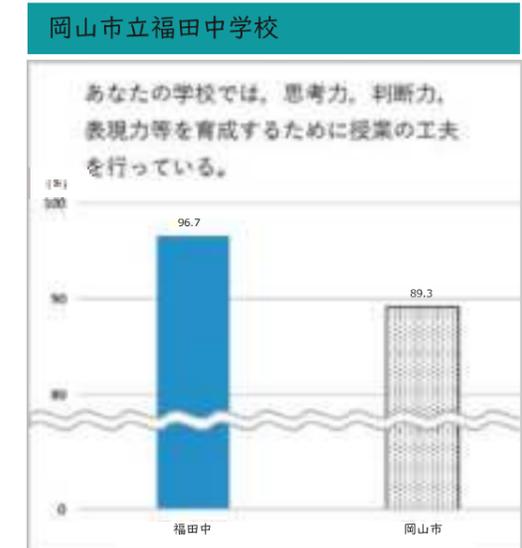
研究の成果

本研究の取組による各校の成果については、研究協力校の実践 岡山市立福田中学校の取組 (P15, 16), 岡山市立芳田小学校の取組 (P19, 20) にそれぞれ記載しています。

また、「岡山市教育に関する総合調査」の結果から、以下のような結果が表れました。



令和元・2・3年度「岡山市教育に関する総合調査」から



令和3年度「岡山市教育に関する総合調査」から

自校の教育課題を意識した取組に関する項目において、芳田小学校では、研究前年度から令和3年度にかけて、肯定的な回答の割合が96.4%から100%になり、3.6ポイント上昇しました。福田中学校では、岡山市と比較して7.4ポイント高い数値を維持しています。

カリキュラム・マネジメントに取り組むことを通して、「目指す子供像」を共有して、学校全体で同じ目標に向かって教育活動に取り組むことができ、チームの一員として組織的、協働的に取り組む力の向上という成果につながっています。

「カリキュラム・マネジメント」概要

学習指導要領には次のように示されています。

目的

子供や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程に基づき**組織的かつ計画的**に各学校の**教育活動の質の向上**を図っていくこと

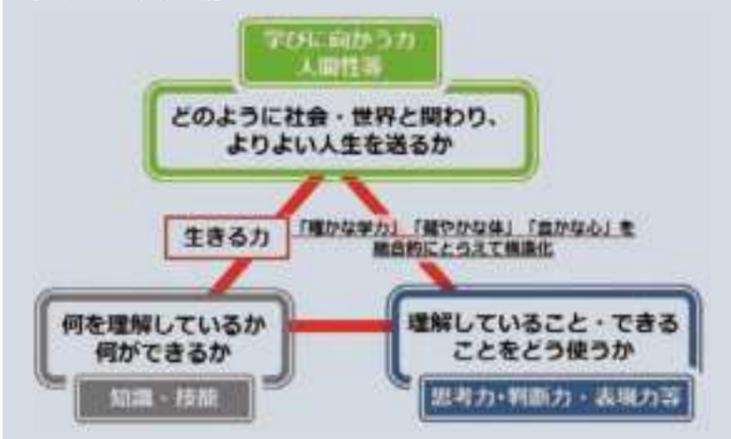
手段

三つの側面を通して取り組む。

- ①**教科等横断的な視点**での教育課程編成
- ②**PDCAサイクル**(計画, 実施, 評価, 改善)の確立
- ③**人的又は物的な体制**の確保・改善

カリキュラム・マネジメントが充実すると、子供に三つの資質・能力が育成され、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むことができます。

育成すべき資質・能力の三つの柱



つまり、カリキュラム・マネジメントとは、学校全体で三つの側面を通して、教育課程に基づいて教育活動を行い、子供たちの資質・能力を育成していくことです。まずは、目指す子供像を共有します。そして、三つの側面を通してカリキュラム・マネジメントに取り組みます。

①教科等横断的な視点での教育課程編成

各教科等の教育内容を、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、内容相互の関連を図りながら、組織的に配列していきます。子供の生きる力を育成するためには、各教科・領域等で身に付ける資質・能力とともに教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成が必要です。

②PDCAサイクル(計画, 実施, 評価, 改善)の確立

学校教育の効果を学校教育目標や目指す子供像に沿って常に検証して改善します。

③人的又は物的な体制の確保・改善

教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図ります。

役職や校務分掌による取組

■管理職



校長は教育課程の責任者

校長がリーダーシップを発揮し、管理職で協力して学校改善を!

■教務主任



教務主任は教育課程のマネージャー

教育課程の管理・運営の実務者として、校内での共有と調整を!

■研究主任



研究主任は教育課程の学習における指揮者コンダクター

目指す子供像の実現のために校内研究体制を作り、導く!

■教員



教員は子供の資質・能力の育成の担い手

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹!

「カリキュラム・マネジメント」の目的である各学校の教育活動の質の向上を図るためには、学校全体で取り組むことが重要です。令和2年度発行「『カリキュラム・マネジメント』の充実を目指して」では、「誰が」「何を」すればよいかについて、役職や分掌ごとにまとめ、取組を具体的に提案しています。

今年度は、学校教育目標の実現を意識し、育成を目指す資質・能力(目指す子供像)を共有して日々の教育活動を行うことの実際をより分かりやすく提示できるよう、校内研究をつかさどる「研究主任」の取組と、教育活動の根幹を担う「教員」の取組に焦点を当てました。

次のページからは、「研究主任とカリキュラム・マネジメント」と「教員とカリキュラム・マネジメント」を、各研究協力校の取組とともに紹介します。

研究主任とカリキュラム・マネジメント

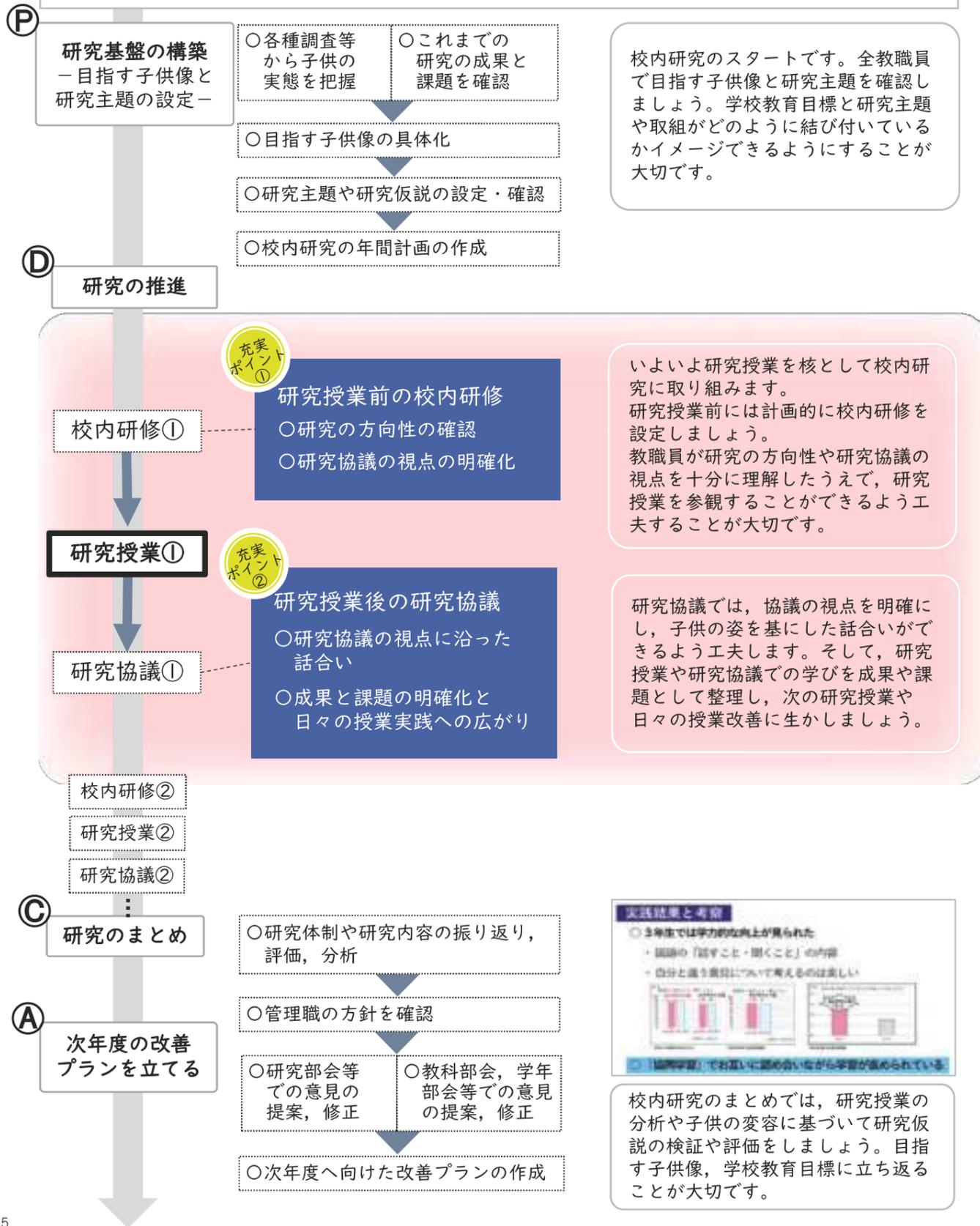


研究主任は教育課程の学習における指揮者

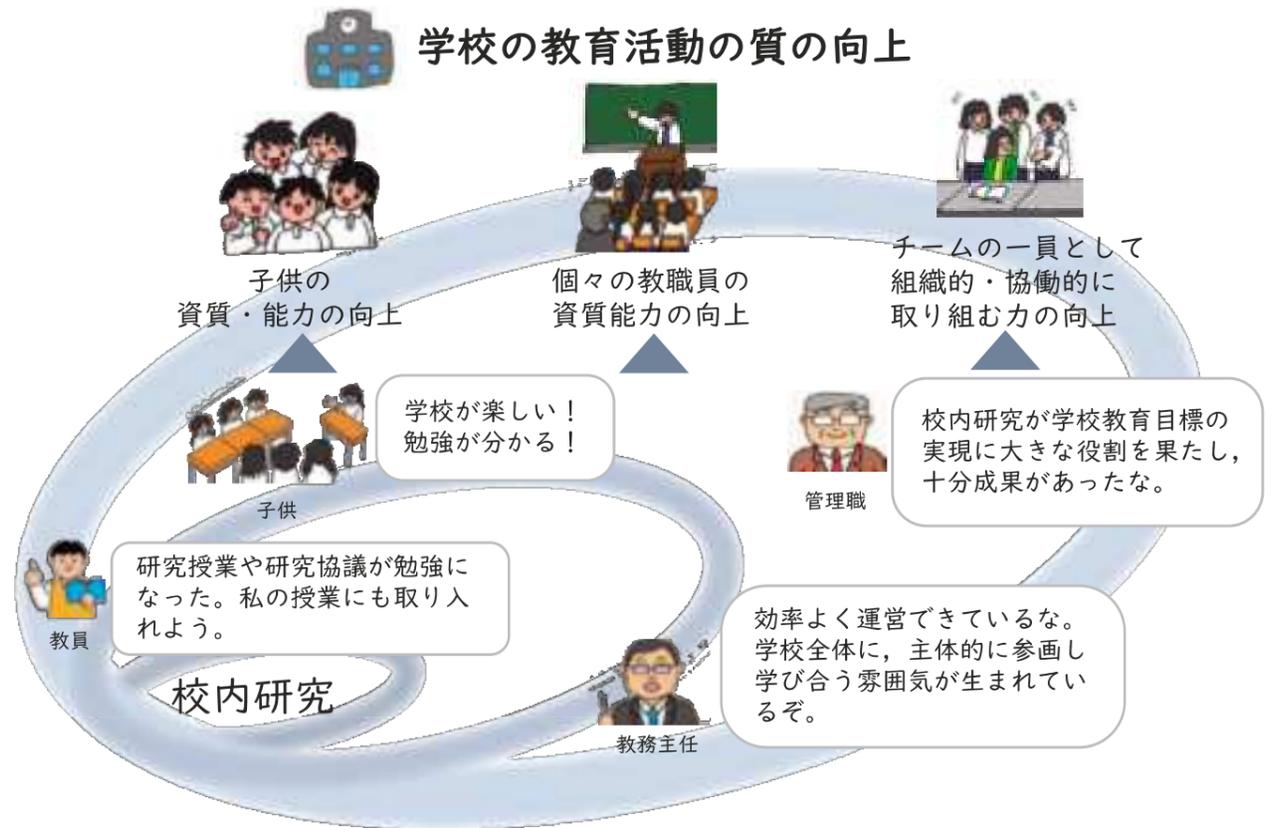
目指す子供像の実現のために校内研究体制を作り、導く!

コンダクター

校内研究のマネジメントサイクル (例)



校内研究の充実のイメージ図



学校全体ですすめる校内研究

管理職の取組 (例)

方向性の提示

- 学校教育目標及び「目指す子供像」の具体的な提示
- 職員会議、校内研修等での方針の共有
- 学校便り、ホームページ等での家庭や地域への発信・共有

教育活動への指導・助言

- 授業実践に対する具体的な指導助言
- 校内研究の運営に対する、教務主任、研究主任等への指導助言

評価・分析

- 学校教育目標及び「目指す子供像」の達成状況の把握と分析



授業実践に対する具体的な指導助言

研究部の取組 (例)

研究内容や運営における補佐

- 場所や時間の設定等計画の立案と実施
- 記録の保管や整理

連絡調整

- 管理職や教務主任、教科部会等への報告・連絡・相談

評価と検証

- 各種調査結果による達成状況の評価
- 研究主題や仮説の検証



研究協議後、話題になった授業場面を研究部で確認

研究主任一人ではなく、「研究部」というチームでの取組は、「協働的に取り組む姿」を教職員に発信することにつながるね。研究主任の負担も軽減できるね。

